

<取材のお願い>

2023年8月8日

東京大学地震研究所

国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）

さくらサイエンスプログラム推進本部

環太平洋～インド洋東岸の国・地域の若者と挑む災害軽減のための共同研究 ～国境や領海を超えた国際的ネットワーク構築を目指して～

東京大学地震研究所では、8月19日（土）～9月8日（金）、環太平洋～インド洋東岸辺りに位置し、巨大地震・津波・火山噴火などの災害の危険に常にさらされている、インド、カメルーン、タイ、台湾、中国、英国*、チリ*、アメリカ*、マダガスカル*の9カ国・地域、12大学から、大学生、大学院生、研究者計12名を招へいし、災害軽減のための共同研究プログラムを実施します。（*は自費による招へい）

本研究所は、1923年の関東大震災をきっかけとして設立されました。地震・津波・火山噴火・地球内部ダイナミクス等の研究分野において世界有数の研究実績があり、多様な専門分野の教員約80名が、災害軽減を推進することを使命として、教育や研究に携わっています。各国・地域からの招へい学生たちは、プログラムの中で各自の研究課題を設定し、本研究所の教員の指導の下で、災害軽減を推進するための研究を行います。招へい学生らが本プログラムから学んだ先端的な研究のノウハウを、自国での調査研究に活用することで、国境や領海などの制約を超えて自然災害現場からのデータ取得・研究を継続できることが期待できます。

本プログラムは、科学技術振興機構（JST）主催の「国際青少年サイエンス交流事業（さくらサイエンスプログラム）」*に採択されたものです。

*「国際青少年サイエンス 交流事業（さくらサイエンスプログラム）」科学技術分野における日本と海外の青少年の国際交流を推進する、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）の事業です。一般公募プログラムでは大学等の日本の機関が作成する科学技術体験、共同研究、科学技術研修に関する青少年の国際交流計画の実施経費を JST が支援します。

<https://ssp.jst.go.jp/>



本研究所では、2014年度から毎年、本事業を活用することで海外の学生たちを招へいしてきました（2020年度、2021年度はオンラインによる実施）。プログラム実施で得られた研究成果のうち、いくつかが国内外の学会や論文として発表された実績があるだけでなく、過去の参加学生が本大学院の博士課程への進学を果たすなど、国際的頭脳循環、研究ネットワーク構築に向けて成果を積み重ねています。

つきましては、招へい学生たちが本研究所の計算機システム等を利用して共同研究を行う様子、伊豆・大島巡検で、地震や火山噴火の発生した現場を訪問したり、箱根火山の形成史や丹那断層について学ぶ様子、共同研究成果発表会の様子などを取材していただきたくお願い申し上げます。なお、参加者をはじめ、実施担当の木下正高教授へのインタビュー取材もアレンジが可能ですので、ご希望の方は担当者までご連絡くださるようお願いいたします。

【実施内容】

- 共同研究
- 伊豆・大島巡検
- 共同研究成果発表会

【研修日程概要】

8月19日(土)	午後：滞在先着
8月20日(日)	午前：日本科学未来館見学 午後：自由
8月21日(月)	午前：本研究所着、オリエンテーション 午後：ラボツアー
8月22日(火) ～8月25日(金)	終日：共同研究（本研究所にて各受入教員が担当） 地震火山情報センターの計算機システム、保管データ等を利用し解析
8月26日(土)	終日：自由
8月27日(日) ～8月28日(月)	終日：伊豆・大島巡検で地震や火山噴火の発生した現場等を訪問（大室山、講演「箱根火山の形成史」、丹那断層公園、伊豆大島、地層大切断面、火山観測所等）
8月29日(火) ～9月1日(金)	終日：共同研究（本研究所にて各受入教員が担当） 地震火山情報センターの計算機システム、保管データ等利用し解析等
9月2日(土) ～9月3日(日)	終日：自由
9月4日(月) ～9月6日(水)	終日：共同研究（本研究所にて各受入教員が担当） ポスター発表準備
9月7日(木)	午前：共同研究成果発表会準備（本研究所） 午後：共同研究成果発表会（教員・日本人学生との交流）、修了式・意見交換会
9月8日(金)	離日

■本件に関する取材申し込み・お問い合わせ先

東京大学地震研究所 国際地震・火山研究推進室
(担当：照原)

■国際青少年サイエンス 交流事業（さくらサイエンスプログラム）に関するお問い合わせ

JST さくらサイエンスプログラム推進本部企画運営室
(担当：田中(禎)、太田)